



山本茂雄

内水氾濫に対する備えを

山本 牛津川改修工事の進捗状況は。

答弁 東多久町妙見橋付近から下流域の河道の掘削、堤防の補強工事も納所地区まで実施しています。また、今年度は納所地区での堤防の舗装工事等も予定しています。



牛津川浚渫工事

山本 現在、小城市右原地区で遊水地計画が進められていますが、今後、予測できない雨量が発生したとき、流域の安全を確保するために、現在の牟田辺遊水地の下流域に遊水地の計画が出来ないか。

答弁 小城市に予定されている遊水地の貯水可能量は牟田辺遊水地の約2倍あり、整備が整えば牛津川の水位は低下することが期待されます。浸水、内水氾濫の問題は改善、または解決に向かうと国は考えているので、現在、牟田辺遊水地に隣接する場所に遊水地の検討はされています。

山本 遊水地を造ることで、牛津川の流水が低下しポンプが常時運転できることは内水対策につながります。牛津川流域である多久市から遊水地の要望書を提出することで、国会議員、県議会議員、各種団体も検討や計画について協議いただけたらと思いますので、検討をお願いしたい。

【その他の質問】

市庁舎周辺一帯の公有地利活用のご検討状況について

小川 光回線やモバイルルーターが使えないエリアへの対応は。

答弁 基本的に通信環境の整備は、民間の通信事業者が主体となっておりますものだと考えておりますが、市民間の通信事業者と連携しながら通信環境整備のニーズを把握し、国の補助金等も利用して整備を進めていきたいと思います。

小川 皆さんが光回線を使える素敵な街になって欲しいので、協力をお願いします。



また、教育もオンライン授業、会社はテレワーク、リモート会議になり、安定した通信速度と品質が必要になります。多久市は光ブロードバンドに対応できていますか。

答弁 市内には光回線が使えない地域もありますが、同軸ケーブルや無線通信などの通信インフラにより、ほぼ全域でインターネットが利用できる環境が整備されており、テレビ会議やオンラインサービスであれば、回線スピードの差はあるものの、ほとんどのエリアで利用できると思えます。



平間智治

防災体制の現状

平間 豪雨における内水対策の現状と課題は。

答弁 令和3年8月の大雨災害の際に内水氾濫が発生している箇所は、県道多久牛津停車場線沿いの納所地区、東多久町の県河川永瀬川、南多久町の県河川庄川などで、課題は、排水機場の機能向上、永瀬川及び庄川に設置された排水ポンプの増強を国や県に要望しています。

平間 国は、内水氾濫に備えたハザードマップの作成と住民への周知を義務付けていますが、多久市の取り組みは。

答弁 内水氾濫を想定したハザードマップは、今後、国や県の動向などを参考に、現状のハザードマップへの表示を検討します。

平間 国は、自力避難が難しい高齢者や障害者など、災害弱者への対策



香月正則

市民の安全を守り活気のある街へ

香月 市内で歩道整備されていない路線は。

答弁 708路線、32万5581mの市道があり、うち618路線、29万4752mについては歩道の設置はされていません。

香月 中山・長尾線の路線は歩道がなく危険な状態であるがどのように考えているのか。

答弁 歩道設置や交通規制などのハード面だけでなく、交通安全指導による意識改革等のソフト面を含めて対策をし、また速度取締りの強化や交通安全啓発等の看板の設置等を行って頂いています。

香月 コロナ対策等に取り組んで安心・安全な多久市に人を呼び込んでこそ経済の活性化や業績向上になると考えるが、今後どのような政策等を考えているのか。

としての個別避難計画作成について自治体の努力義務としていますが、市の取り組み状況は。

答弁 令和3年度は、避難行動要支援者の要件に該当する方1069名、この内施設入居者や長期入院の方などを除いた783名の方に支援のお知らせをし、情報提供に同意いただいた397名分について避難支援関係者の嘱託員や民生委員の方々に名簿と計画を提供し対応していきます。



内水氾濫

答弁 今年度も実施している新しい生活様式対策支援事業により、安心・安全な事業者や店舗づくりの支援を行っています。また、毎月多久市商工会と情報共有を行い、事業者が必要とされる施策等について協議を行い、密に連携を取りながら事業に取り組んでいます。地方創生テレワーク交付金事業では、民間施設にサテライトオフィス等を設置し、首都圏等の企業を誘致することで新たな人の流れをつくり出す事業を進めたいと思っております。



市道 中山・長尾線